

救急パッケージ 特定行為看護師の実践報告

市立ひらかた病院 HCU 佐藤美奈

自己紹介

看護師経歴

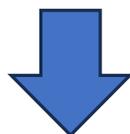
2006年-2011年	聖隷三方原病院（消化器内科病棟）
2011年-2017年	派遣看護師として地域医療領域を経験 外来・療養型病院・老健・特養・訪問入浴など
2017年-2025年	市立ひらかた病院（救急外来・内視鏡室）
2024年	特定行為看護師救急パッケージ区分研修 修了
2025年	HCUへ異動

実施可能な特定行為：5区分9項目

特定行為看護師を目指した理由

① 憧れの存在との出会い

急変対応時に速やかに観察
医師と共に処置にあたる
CCNSの姿をみた



憧れと共に自分も対応力が
必要だと見つめ直した

② CCNSからの誘い

CCNSから救急の特定行為
研修を受けてみないかと
誘ってもらった

CCNS:急性・重症患者看護専門看護師

特定行為研修受講に対する思い

受講への不安

- 研修・仕事・家庭との両立できるのか？
- 研修を全うできるのか？

実際に受講してみて

- 講義は**業務時間内**のため家庭との両立ができた
- e-learningや実習レポートは大変だったが同期と協力しながら乗り越えられた

当院の概要と体制

市立ひらかた病院

病床数

335床（HCU 4床）

夜間・休日の当直体制

内科・外科・小児科

各診療科につき

- 外来当直 1名（院外派遣医師を含む）
- 院内当直 1名

特定行為看護師（救急パッケージ）の配置

研修修了者：8名

- 救急外来：2名
- HCU：6名

（うちCCNS取得者：3名）

研修中

- 第3期生：HCU・一般病棟
（3名）

活動の実際

① ラウンド活動

毎週月曜日に救急特定行為看護師2名以上で全病棟をラウンド

対象患者

- EWSスコア7点以上および前回値より2点悪化している患者
- 週末の入院患者、夜間に状態変化のあった患者

活動内容

カルテ情報・患者観察 → アセスメント → 必要時対応策を伝達 ・ HCU入室検討

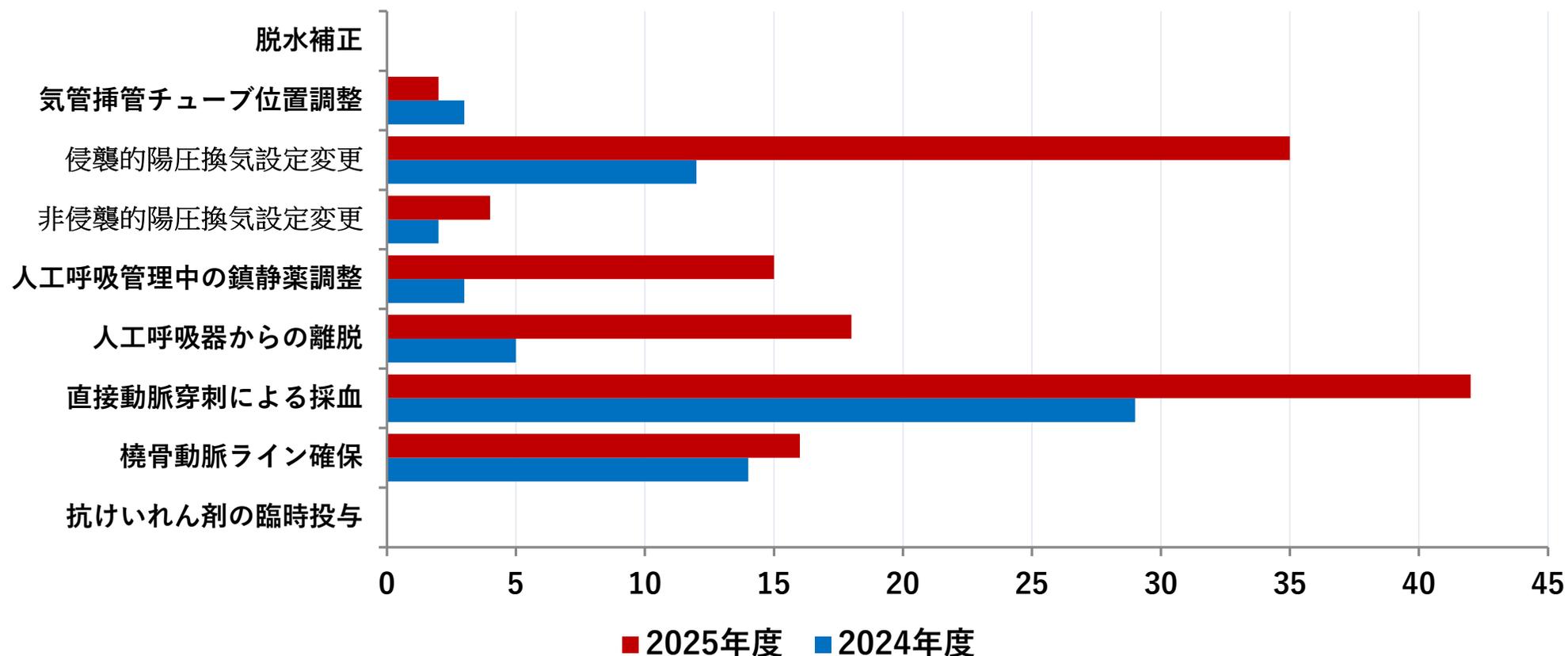
② 特定行為実施

特定行為に該当する対象患者の主治医へ特定行為指示書の発行を依頼
医師からの特定行為の依頼

救急パッケージ9項目の特定行為を随時実施

- 患者の状態に応じてタイムリーな医療介入の実施

実施している特定行為



症例紹介：ラウンドによる介入①

患者背景

80歳代女性 侵襲的陽圧換気管理中

一般病棟看護師からの相談

不穏行動があり、挿管チューブの自己抜管リスクがある
本人もしんどそう
鎮静剤投与を検討したい

症例紹介：ラウンドによる介入②

実際の患者さんの状態

観察所見

腕を規則的に動かしている

意識レベルの改善なし ・ 疼痛 ・ 苦痛なし（CPOT評価:0）

判断

挿管チューブへの苦痛反応ではなく、不随意運動の可能性が高い

介入内容

① 挿管チューブの位置確認

緩みを発見→**気管挿管チューブの位置確認・再固定を実施（特定行為）**

② 一般病棟看護師へ鎮静度の評価、苦痛の評価、せん妄の評価方法を指導

症例紹介：特定行為による介入①

状況紹介

急性呼吸不全で人工呼吸器管理中、離脱に向けて介入中に
特定行為看護師が夜勤勤務中

直面した課題

CPAPモードで呼吸器管理を行っていたが夜中に自発呼吸が
弱くなり、酸素化が維持できなくなってきた

症例紹介：特定行為による介入 ②

特定行為看護師の介入

いつもであれば・・・当直医に報告し呼吸器の設定変更を依頼



患者は**侵襲的陽圧換気の調整の指示書が発行**されているため、
特定行為看護師により**CPAPからPCVにモードを設定変更し、**
調整を行なった。

介入の成果

タスクシフトの実現

タイムリーな調整により患者の負担を最小限にとどめることができた
夜中の出来事であったが、医師の業務負担を軽減できた

アンケート調査：HCU看護師の声

特に高評価だった項目

- ◎ 医師の負担が軽減された
- ◎ 患者対応に安心感が増した
- ◎ 急変リスクのある患者へのケアがしやすくなった
- ◎ 状態変化への対応が早くなった
- ◎ チーム医療の質が向上した
- ◎ 治療方針の共有がスムーズになった
- ◎ 他職種連携がスムーズになった

看護師からのコメント

「呼吸器設定について不明点を質問したら、すぐに状態を確認し説明してくれる」
「Aラインの挿入や抜去が医師を待たずに済み、対応がスムーズになった」
「特定行為で対応できる範囲が広がって、現場のストレスが軽減している」

アンケート調査：特定行為看護師の声

アンケート結果（5点満点）

患者ケアの質向上への貢献

平均 4.0点

自身の専門性を発揮

平均 3.5点

やりがいを感じる

平均 3.0点

やりがいを実感した場面

- 人工呼吸器離脱判定の実施
- Aライン挿入、動脈採血の実施
- 呼吸器設定変更を医師を待たず実施
- 患者の呼吸状態に合った設定に
コンスタントに調整し、
呼吸状態が安定した時

課題と今後の展望

- ▲ 院内スタッフの周知不足に対して浸透できる取り組み
- ▲ 相談窓口としての環境整備
- ▲ 特定行為指示書入力の定着（毎回説明が必要）
- ▲ 特定行為活動の振り返り体制の構築
- ▲ 特定行為のブラッシュアップ
- ▲ RST（呼吸サポートチーム）設立

ご清聴ありがとうございました